
資 料 編

資料1 かまくら教育プラン策定の経過

資料2 告 示 文 (写)

資料3 具体的な取り組み一覧

資料3 具体的な取り組み一覧 については、
平成29年3月に見直しを行い、改訂しました。

かまくら教育プラン策定の経過

<p>〔平成 14 年度〕</p> <p>平成 14 年7月 17 日～平成 15 年3月 19 日</p> <p>平成 15 年1月 25 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・かまくら教育プラン策定委員会会議の開催(平成 14 年度、会議を5回開催)。第1回策定委員会において、「(仮称)かまくら教育プラン」の基礎となる「鎌倉市の学校教育の将来に向けた構想及び指針」について諮問 ・「かまくら教育トーク」の開催 ・インターネット等による市民意見の募集(平成 16 年1月まで)
<p>〔平成 15 年度〕</p> <p>平成 15 年5月 29 日～平成 16 年3月 19 日</p> <p>平成 15 年5月 15 日～5月 28 日</p> <p>平成 15 年6月 17 日～7月7日</p> <p>平成 15 年8月6日～平成 16 年1月 19 日</p> <p>平成 16 年3月 25 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・かまくら教育プラン策定委員会会議の開催(平成 15 年度、会議を5回開催) ・保護者・教職員アンケートの実施 ・児童生徒アンケートの実施 ・小委員会会議の開催(4回開催) ・提言書「鎌倉市の学校教育の将来に向けた構想及び指針 ～「かまくら教育プラン」への提言～」を受理
<p>〔平成 16 年度〕</p> <p>平成 16 年4月～</p> <p>平成 16 年5月～</p> <p>平成 16 年6月1日～6月 30 日</p> <p>平成 16 年 11 月</p> <p>平成 16 年 11 月 10 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・庁内関係各課との調整 ・「かまくら教育プラン(素案)」作成 ・市内の全公・私立小中学校へ素案配布。意見募集 ・市内の全幼稚園・保育所へ素案配布。意見募集 ・広報かまくら6月1日号に素案掲載 ・素案に対する市民意見の募集(33 件・184 項目) ・「かまくら教育プラン(案)」の作成 ・教育委員会 11 月定例会において「鎌倉市の学校教育における基本方針と目標」を可決、同日告示。「かまくら教育プラン」を承認
<p>〔平成 22 年度〕</p> <p>平成 22 年5月～</p> <p>平成 23 年2月9日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 20 年3月に小・中学校学習指導要領が改定され、小学校が平成 23 年度、中学校が平成 24 年度に実施されることにともない、基本方針及び目標の語句を見直し ・教育委員会2月定例会において、「かまくら教育プランの見直しについて」を可決

告示文（写）

鎌倉市の学校教育における基本方針と目標

（平成16年11月10日 鎌倉市教育委員会告示第15号）

鎌倉市の学校教育における基本方針と目標を次のように定める。

基本方針	目 標
1 子どもたちが安心して学び生活できる、安全で開かれた学校づくりを進めます。	(1) 子どもたちが教師や友人との信頼関係を築き、楽しく活気ある学校生活が送れるよう取り組みを進めます。 (2) 家庭、地域と協力して、すべての子どもたちが安心して過ごせる安全な学校にするための取り組みを進めます。 (3) 家庭、地域との連携のもとに、信頼と相互交流をいっそう進める「開かれた学校づくり」に努めます。
2 子どもたちの学習意欲を高め、確かな学力の向上をめざします。	(1) 学習の基礎・基本を定着させ、「わかる授業」をよりいっそう徹底させます。 (2) 学習に対する子どもたちの興味・関心・意欲を引き出し、自ら学ぶ気持ちをはぐくみます。 (3) 子どもたちがさまざまな体験を通じた学習をすることにより、自ら考える力と行動する力を身につけさせます。 (4) 子どもたちが鎌倉の自然、歴史、芸術、文化などの学習を通して、郷土を愛する心をはぐくみ、国際的な視野を広げる取り組みを進めます。
3 子どもたちに社会性・道徳性を身につけさせ、共に生きる心をはぐくみます。	(1) 子どもたちが日々の活動や地域の人々とのふれあいを通して、感謝する心や思いやりの心、譲り合いの心をはぐくみ、社会性や道徳性を高めるよう指導します。 (2) 学校は家庭や関係機関との連携をいっそう深め、子どもの心の問題の解決に向けた取り組みを推進します。 (3) 障害のある人もない人も共に学び育つことを喜び合える環境づくりを進め、共に生きる社会の大切さを理解させます。 (4) 子どもたちの豊かな成長のために、家庭、幼稚園・保育所、学校などが連携し協調して、連続性のある取り組みを進めます。
4 子どもたちの心と体を健やかに成長させ、豊かな感性を養います。	(1) 家庭と連携して子どもたちに正しい生活リズムと生活習慣を身につけさせ、心身の健康の増進を図ります。 (2) 子どもたちに体を動かすことの大切さを認識させ、運動能力や体力の向上に向けた取り組みを進めます。 (3) 家庭と連携して「食育」に取り組み、子どもたちの健康の基盤づくりを進めます。 (4) 子どもたちが芸術活動や文化活動を通して、豊かな心をはぐくむことができるよう取り組みを進めます。
5 安心して子育てができる環境づくりを進めます。	(1) 子育ての楽しさや喜びを感じられるよう、関係機関や子育て支援団体などによる、支援のネットワークを充実します。 (2) 子どもたちが安全に安心して外遊びができるよう、地域と一体になって、遊び場の環境づくりを進めます。

基本方針 1

子どもたちが安心して学び生活できる、安全で開かれた学校づくりを進めます

楽しく活気ある学校生活

《 校内における教育相談 》

各学校では、児童生徒一人ひとりがもっている人間関係や心の悩み、学習・生活などの教育上の問題について、教育相談コーディネーターを中心として、担任・養護教諭・スクールカウンセラー・心のふれあい相談員などすべての教職員のだれでもが、本人や保護者からの相談を受けられる教育相談の体制を作っています。

《 教育センター相談室事業 》

教育センター相談室では、相談指導事業と教育支援事業を行っており、幼児から青少年まで（主に学齢期）の教育や生活上の諸問題の相談を受けています。また、教育相談員を定期的に小学校に派遣して、学校における教育相談を支援しています。教育支援教室「ひだまり」では、不登校で悩んでいる児童生徒に対する教育支援として、集団生活への適応、基礎学力の補充等を行っています。

《 スクールカウンセラーによる相談 》

児童生徒または保護者が、担任や教員以外に相談したい場合や専門的な助言を求めたい時などのために、各中学校区にスクールカウンセラーを配置しています。

《 心のふれあい相談員 》

いじめの早期発見・早期対応、教育相談体制の充実を図るため小学校に「心のふれあい相談員」を配置しています。教職員と連携を図りながら、悩みや問題を抱えている児童や保護者に対する教育相談を行っています。

《 スクールソーシャルワーカーによる支援 》

社会福祉に関する専門的な知識や経験を持ったスクールソーシャルワーカーを教育センター相談室に配置しています。

《 たてわりグループによる異学年とのかかわり 》

小学校では、低・中・高学年のブロックごとの交流、たてわりグループでのウォークラリーや遊びなどを通して、異学年とのかかわりを持つような活動を行っています。

《 「いじめのない学校」を目指して 》

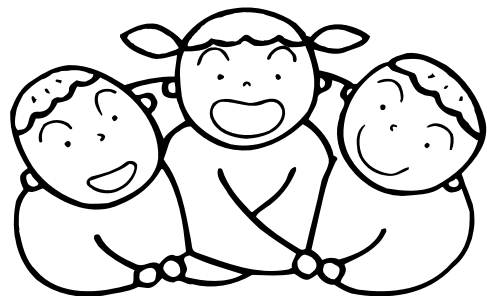
教職員が「いじめ」に関して共通認識を持ち早期発見と未然防止に取り組むためのリーフレットを作成しています。このリーフレットは学校全体での取り組みを充実する資料として、指導方法及び支援体制の点検と改善にも活用しています。

《 相談ポスト 》

各小・中学校では、相談ポストを設置し、児童生徒の悩み等に対応しています。

《 子どもの相談機関紹介カードの配付 》

市内小・中学校在籍の児童生徒全員に「相談窓口カード」と題した子どもの悩みに対応する、複数の相談機関の電話番号を記したカードを配付し、相談機関の紹介と周知を行っています。



安心・安全な学校
～家庭・地域との協力～

《 児童安全指導 》

市内小学校の児童を危険や暴力から守るために小学校1年生を対象に実施します。

《 児童指導・生徒指導に関する連絡会 》

「児童生徒指導連携協議会」「児童指導担当者会」「生徒指導対策協議会」「鎌倉市学校・警察連絡協議会」が組織され、学校間や関係機関との情報交換を行っています。

《 校外委員 》

学校外における児童生徒の安全を守る活動を行っています。校外委員はPTAの組織として位置付けられている学校が多いのですが、PTA未組織校にも設置されています。

《 安全で安心して遊べる環境づくり 》

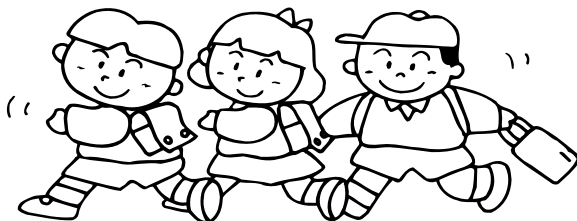
学校や子ども関連施設において、子どもたちが犯罪に巻き込まれないよう、「不審者侵入対応訓練」や「誘拐連れ去り防止教室」など、警察や関係機関と連携し子どもの安全確保対策に取り組んでいます。

《 学校施設維持整備事業 》

学校施設の維持整備に当たっては、児童生徒に安全で快適な学習環境を提供するとともに、生活の場としてのゆとりと潤いのある環境づくりに努める必要があります。このため、既存の校舎・体育館等の改修及び改築にあたり、学習形態の多様化への対応を図るとともに、質的、機能的な面での向上を目指し、取り組みを進めています。

《 小学校への警備員の配置 》

児童の登下校時及び授業中の学校施設内の安全確保を図るため、市内小学校全16校に警備員が常駐し、警備を行っています。



《 安全マップ 》

多くの学校で、交通事故発生場所や危険箇所、不審者の出没箇所、暗い道などを取り上げて安全マップを作成し、児童生徒の安全と安心を保つための指導に役立てています。

《 スクールゾーン等の対策 》

市民安全課が所管する警察・藤沢土木事務所・市P連、市関係課からなるスクールゾーン等交通安全対策協議会において、関係機関相互の連携を強化し交通安全対策を実施しています。この協議会に教育委員会も参画し、スクールゾーンや通学路の交通安全計画の策定や中長期計画の進行管理に対して協議・要望等を行っています。

《 安全な通学路づくり 》

各学校では、毎年、教職員、校外委員などが通学路の安全点検を行い、改善箇所がある場合は、教育委員会に報告し、教育委員会はスクールゾーン等交通安全対策協議会に改善要望を行っています。

《 地域巡回パトロール 》

子どもから高齢者まで、地域における安全で安心なまちづくり推進のため、青色回転灯付きパトロールカーにより地域の巡回を行っています。

《 街頭指導事業 》

子どもたちの健全な育成と非行防止のために、安全で安心した生活環境づくりに向けた児童生徒の下校時の街頭指導やキャンペーン、社会環境実態調査などを実施しています。

《 登下校の見守り 》

児童の登下校時の安全を守る活動を地域・保護者・PTA等と協力して行っています。

《 児童生徒に対する交通安全教育の実施 》

歩行中や自転車利用時の安全確保と通学ルールへの理解を深めるため、関係機関と連携を図り「歩き方教室」や「自転車教室」等の交通安全教育を実施しています。

また、自転車のルール、マナーの向上を図るため、市内の小学生に交通安全教育のリーフレットを配布しています。

《 避難訓練 》

各学校では、学校防災マニュアルにのっとり、地震・津波・火災・風水害を想定し避難訓練を行っています。児童生徒が適切な避難方法を知るとともに、緊急時に速やかに行動できるように取り組んでいます。

《 災害対策用品 》

災害時に児童生徒の安全を確保するため、教室や管理諸室に災害対策用品を常備しています。

- ・ 教室用：
非常持ち出し袋、LEDランタン、
救急セット など
- ・ 管理諸室：
発電機、簡易トイレ、充電式電池、
拡声器、トランシーバー など

《 防犯対策 》

各学校では、安全管理マニュアルを作成し、防犯グッズの校内配備、不審者侵入対応訓練等の安全対策を講じています。

《 防災行政用無線によるメロディー放送 》

子どもたちが犯罪に巻き込まれないように、帰宅を促すため、防災行政用無線の機能点検を兼ねて、「夕焼け小焼け」のメロディーを放送しています。（毎日、4月～9月は17時00分、10月～3月は16時30分に放送。）

《 関連機関との連携 》

児童生徒の非行防止、健全育成のために、警察と連携した「鎌倉市学校・警察連絡協議会」が組織されています。また、中学校生徒指導対策協議会では保護司会との連携も図っています。

児童虐待防止に関しては、児童相談所等との連携を図っています。福祉教育の実施に当たっては、社会福祉協議会との連携のもとに、さまざまな取り組みを実施しています。

《 関係機関等との連携（防犯連絡会） 》

子どもたちの犯罪被害や非行防止のため、教育委員会、関係課及び鎌倉・大船両警察署により連絡会を開催し、犯罪発生状況や不審者事案等の情報交換を行っています。

開かれた学校づくり
～家庭・地域との連携～

《 学校評議員制度 》

学校長の学校運営に資するために、保護者や地域住民などからなる学校評議員を置き、意見を聞く制度です。

《 学校評価 》

学校として組織的・継続的な改善を図ることを目的として、各学校が、教育活動、その他の学校運営について目指すべき目標を設定し、達成に向けた取り組みが適切に行われているか等について評価を行っています。

《 学校へ行く週間 》

保護者や地域の方が、学校に対する理解や支援をより一層深めていただくよう、期日を定めて授業やクラブ活動、部活動などを公開しています。

《 学校のホームページ 》

学校ホームページにより情報提供を行っています。



基本方針 2

子どもたちの学習意欲を高め、確かな学力の向上をめざします

わかる授業

《 少人数指導 》

学級を一つの大きな集団から複数の小集団に分け、それぞれの集団の中でより個に応じたきめ細かな指導ができる「少人数の指導」に取り組んでいます。

《 複数教員による指導 》

「ティーム・ティーチング（TT）」と呼ばれ、複数教員が協力し合って行う指導のことです。

子どもの多様な思いや願い、興味・関心、個性的な学びに手厚く応えるよう取り組んでいます。

《 習熟の程度に応じた授業 》

児童生徒の目標の達成状況をもとに、複数の学習集団に分けて子どもの実態や指導の場面に応じて、授業を行うこともあります。基礎・基本の習得と児童生徒の興味・関心等に応じた、発展的・補足的な学習ができるようになります。

《 少人数学級編制 》

平成19年度に小学校1年生、平成20年度には小学校1・2年生で、小学校市費負担非常勤講師を配置して1学級35人以下の少人数学級編制を実施してきました。平成23年度からは小学校1年生について国の標準学級編制が35人となったため、小学校2年生で実施し、学習面及び生活面のきめ細かな指導の推進・充実を図っています。

《 日本語指導等協力者派遣 》

日本語の理解や学校生活に十分に適応できていない帰国児童生徒、外国につながるの児童生徒などに対し、日本語指導等の支援を行い、学校生活への適応を図っています。

《 教員の指導力向上の研修 》

「学校支援研修会」では、校内研修を支援するため、学校からの要請にもとづいて講師を派遣し、研修の充実を図っています。

「授業づくり研修会」では、児童生徒の学力向上につなげ、教員の指導力を高めるために、学校に講師を派遣し模範授業を行い、実践的な場面での授業改善や工夫に生かしています。

《 教員の経験年数に応じた研修 》

新採用教員を対象として、学習指導や学級経営に必要な基礎的・基本的な知識と技能を習得するために研修を行っています。また、2年目、3年目の教員に対しても指導力と資質の向上を目的として研修を行っています。

《 校内での研究・研修 》

各校において教育課程や児童生徒指導等の課題について研修担当が中心になって年間計画を作成し、研究研修に取り組んでいます。

また、市内小学校6校、中学校3校を教育課題指定研究校に指定し、指定校はテーマを決め、3年間の研究に取り組んでいます。

《 学校訪問 》

教育委員会の指導主事が各学校を訪問し、教育方針・学校経営等について把握するとともに、授業参観と教職員との懇談により学校との意思疎通を図り、授業づくり等、研究・研修の充実を図っています。

《 鎌倉市教育指導員の派遣 》

教職員の指導力の向上を目的として、学校のニーズに応じて教育指導員を派遣し、教職員の指導、助言、相談を行います。

自ら学ぶ気持ちを育む

《 読書活動の取り組み 》

市立の小・中学校では、朝のホームルームの時間等を活用して読書活動に取り組んでいます。また、「読書活動推進員」「学校図書館専門員」を雇用し、市立の小・中学校へ派遣する中で、児童生徒への読書活動推進のための読み聞かせやブックトーク、図書紹介などをはじめ、図書室での事務や整理を行っています。

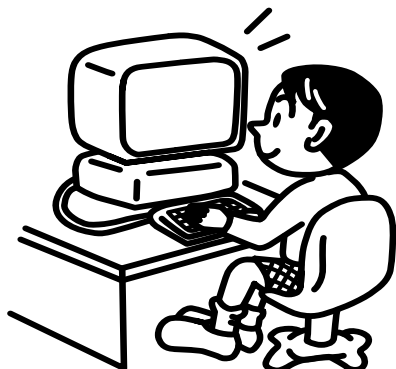
平成25年2月に策定された「第2次鎌倉市子ども読書活動推進計画」をもとに読書環境の整備を進めています。

《 特色ある学校づくり 》

児童生徒・保護者・地域の人にとって魅力ある学校となるよう、保護者や地域の人と連携して各学校が創意工夫のある取り組みを行い、開かれた学校づくり、特色ある学校づくりを推進しています。取り組み内容としては、多くの学校が地域との連携を中心に教育活動の充実や読書指導等の実践をしています。また、校内の環境整備に取り組んでいる学校もあります。

《 情報教育 》

中学校ではコンピューター室を設置し、各教科の指導に当たっては、生徒が情報モラルを身につけ、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を適切かつ主体的、積極的に活用できることをめざしています。小学校でも、コンピュータを各校41台整備し、児童がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段に慣れ親しみ、コンピュータの基本的操作や情報モラルを身につけ、適切に活用できることをめざしています。



自ら考える力・行動する力

～さまざまな体験を通じた学習～

《 総合的な学習の時間 》

自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する力を身につけ、自己の生き方を考えることができるようにすることをねらいとして授業展開をしています。各学校の児童生徒、地域の実態に応じて、環境教育、福祉教育、情報教育、国際教育、キャリア教育などの内容に取り組んでいます。具体的には、地域の方々や専門家の協力を得て、郷土学習、野菜や草花の栽培、川の汚れや酸性雨の調査を通じた環境学習、障害のある方や高齢者との交流、インターネットを活用した情報収集・活用、異文化体験、身近な職場での職業体験などに取り組んでいます。

《 子ども議会 》

平成13年度から、議会制民主主義への理解を深めながら地方自治の仕組みについて体験を通して学習する目的で開催しています。全小・中学校を2グループに分け、各グループ隔年で交互に対象となり、小中合同で開催しています。各学校2名の代表が参加して一般質問、子ども議会宣言の採択を行っています。



《 環境教育 》

身近な自然環境や生活環境に興味を持ち、環境保全に対する認識を深めたり、行動力を身につけたりするという、いわゆる「生きる力」の育成に視点を置きながら、地球環境の問題や、リサイクル、ごみ問題などをテーマにして、市立小・中学校の総合的な学習の時間において環境教育の充実を図っています。

《 青少年セミナー 》

鎌倉市生涯学習推進委員会に委託して、青少年セミナーとして、子どもの体験学習等教室・講座を実施しています。

郷土を愛する心・国際的な視野

～鎌倉の自然、歴史、芸術、文化などの学習～

《 かまくら子ども風土記 》

郷土学習資料として、鎌倉の歴史、地理、寺社の縁起、地域に伝わる行事や伝説などについてまとめた「かまくら子ども風土記」を各学校で活用し、地域学習に役立てています。

《 理科・社会科の学習資料による郷土学習 》

教育センターでは、3冊の学習資料（小学校社会科「かまくら」、中学校社会科「私たちの鎌倉」、中学校理科「鎌倉の自然」）を刊行しています。

鎌倉の自然、歴史、地理等の学習で活用されています。

《 鎌倉の伝統文化を体感する 》

鎌倉の伝統文化への関心を図り、郷土を愛する気持ちを育くむため、鎌倉市観光協会の主催事業、「流鏑馬」と「鎌倉新能」において、市内公立小・中学校の子どもたちに、鑑賞の機会を提供しています。

《 学校向け特別解説 》

展示会の会期中、学校向けに特別解説を行っています。事前に学校からお聞きした学年等の情報から、来館する子どもたちの学齢に合わせた展示解説を実施しています。

《 子ども仏像教室 》

仏像をテーマにした特別展の会期に合わせ、作品を前に学芸員の解説を聞いたり、自由に写生を行うなど、参加者が仏像を中心とした鎌倉の文化財に親しめるような催しを行っています。

《 オリジナル紙ひな作り 》

ひな人形をテーマにした特別展の会期に合わせ、小学3年生以下を対象とした催しを行っています。ひな人形について学芸員の解説を聞いたり、折り紙でオリジナルのひな人形を作成したりすることで、参加者が日本の伝統文化に親しめるような内容となっています。

《 「ようこそ先達」事業 》

鎌倉は歴史的・文化的背景から、数多くの文化人・芸術家が在住するなど恵まれた環境にあります。様々な分野で活躍している鎌倉ゆかりの文化人・芸術家が市内の小・中学校で生徒たちに思いや感動を伝えます。

《 出前講話“平和” 》

希望する小・中学校を対象に、戦争体験者や国際協力活動家などを派遣し、その体験などを聴かせる出前の講演会を実施し、平和や国際協力について考えるきっかけとしています。

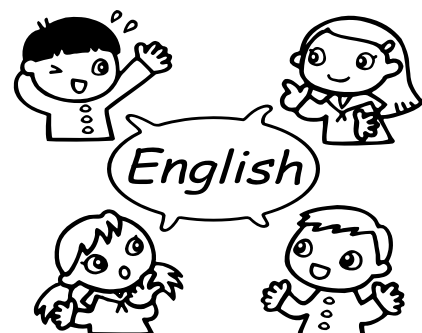
《 外国人英語講師（ALT） 》

中学校では英語の授業に外国人英語講師を派遣し、コミュニケーション能力の育成に努めています。小学校では英語活動の時間に外国人英語講師などとのふれあいを通じて「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成」「外国語に慣れ親しむ」「コミュニケーション能力の素地づくり」をねらいとして取り組んでいます。



《 英語活動サポーター 》

小学校高学年における英語活動の時間で、担任教員や外国人英語講師と協力してコミュニケーション活動を指導するため、地域人材をサポーターとして派遣しています。



基本方針 3

子どもたちに社会性・道徳性を身につけさせ、共に生きる心を育みます

社会性や道徳性を高める
～日々の活動、地域の人々とのふれあい～

子どもの心の問題の解決
～家庭・関係機関との連携～

《 道徳教育 》

各学校で全体計画をもとに行われています。教育センターで地域を題材にした道徳資料集「かまくらのはなし」「続かまくらのはなし」を各学校に配付し、授業で活用しています。

《 PTA・保護者会や地域の人々と協力した取り組み 》

「総合的な学習の時間」を中心に、外部講師として保護者や地域の人々に協力を得ています。学校の教職員が地域の方を対象にした公開講座の講師をしたり、地域の方と協力して行事やお祭りなどを実施しています。

《 青少年指導員 》

青少年指導員は、青少年の健全な育成を図るため、地域での担い手として活動しています。地域の人と人をつなげるコーディネーター的な役割を果たしながら、青少年の自発的活動や、育成活動を推進し、地域の青少年団体の活動を盛んにするための支援を行っています。

《 青少年協会 》

青少年協会は市内ボーイスカウト、ガールスカウトと青少年課で構成されています。青少年育成団体相互の連絡調整を図り、青少年の健全育成事業を推進することを目的として活動し、イベントを実施しています。

《 子ども会 》

子どもたちの健やかな成長を願い、申請に基づき、子ども会の活動に補助金を支出し、活動を支援しています。

《 いのちの教室 》

保健師、助産師が小・中学校に出向き、いのちの大切さやからだ、心を健やかに育むための講話や体験学習を行います。

《 いじめや不登校をなくす取り組み 》

教育センター相談室において、いじめ・不登校等の相談を行っています。また不登校児童生徒が通う教室として、教育支援教室「ひだまり」を設置し、専任教員及び教育支援員の教育相談、小集団での人間関係づくり、基礎学力の補充等に取り組み、児童生徒の生活を支援しています。

また、児童生徒の人間関係づくりが、いじめ等の防止にも役立つことを考え、人間関係づくりの研修会を開催しています。

《 鎌倉市いじめ相談ダイヤル 》

いじめの予防とその防止及びいじめの問題の早期発見・早期解消を図るため、教育センター相談室にいじめ相談を受ける専用電話を設置しました。鎌倉市内在住・在学の児童生徒とその保護者を対象に相談指導担当、教育相談員、鎌倉市スクールソーシャルワーカーが相談を受けます。

《 校内における教育相談 》

再掲：資料編 P3 参照

《 教育センター相談室事業 》

再掲：資料編 P3 参照

《 スクールカウンセラーによる相談 》

再掲：資料編 P3 参照

《 心のふれあい相談員 》

再掲：資料編 P3 参照

《 民生委員・児童委員 》

民生委員・児童委員として、法にもとづいて委嘱された200名余りの方々が活動しています。また、児童に関する問題を主に担当する主任児童委員20名が活動しています。福祉事務所、児童相談所、学校等の関係機関が行う事業について協力してもらい、住民と行政機関の橋渡し役となっています。

共に学ぶ環境
共に生きる社会

《 障害のある子どもたちへの教育 》

特別支援学級を設置して障害のある児童生徒に対して、一人ひとりの子どもの教育的ニーズに応じ、自立に向けた教育を行っています。また、障害のある児童生徒と通常の学級の児童生徒とがふれあうよう交流を行っています。

《 教育相談・就学相談 》

教育上特別な支援を必要とする児童生徒の学校生活や就学等に関する相談を随時行っています。

《 学級介助員 》

通常学級及び特別支援学級に在籍している支援を必要とする児童生徒に対して、生活面や安全面での介助を行っています。鎌倉市の非常勤嘱託員が担当します。また、宿泊を伴う行事の中で生活介助を必要とする場合にも介助員を派遣しています。

《 スクールアシスタント 》

通常学級に在籍している支援を必要とする児童に対して、学習面への支援を中心に行います。教員免許を有する鎌倉市の非常勤嘱託員が担当します。

《 特別支援教育巡回相談員 》

支援を必要とする児童生徒の実態把握、適切な支援についての助言・指導、校内支援体制整備への助言・指導等を行います。心理面、発達障害等についての専門的知識を有する鎌倉市の非常勤嘱託員が担当します。

《 学級支援員 》

通常学級及び特別支援学級に在籍している支援を必要とする児童生徒に対して、必要な場面に応じて生活支援を行います。支援員は、市民による有償ボランティアです。

《 教育相談コーディネーター連絡会 》

小・中学校の特別支援教育の窓口となる教育相談コーディネーターが参加し、情報交換及びコーディネーター研修を行います。

《 障害児者福祉の推進 》

鎌倉市では、平成24年3月に「鎌倉市障害者基本計画」を、平成27年3月に「鎌倉市障害福祉サービス計画」を改定し、「障害のある人もない人も、だれもが一生にわたり、健やかで安心して地域で暮らせるまち」をめざして「ともに学び・育つ環境の充実」を図るため、障害児保育や特別支援教育の充実、また障害児相談や発達支援の推進に取り組んでいます。

《 学校における福祉教育の支援 》

小・中学校が行う福祉教育について、鎌倉市社会福祉協議会が相談、学習内容の打ち合わせ、講師の紹介、プログラムの提案等を行っています。

《 高齢者との世代間交流 》

世代を超えた交流を推進して、高齢者の豊かな経験と知識を活用し、昔遊びの伝承などに取り組んでいます。

《 乳幼児とのふれあい 》

小・中学校では、授業、福祉教育やキャリア教育の場で、幼稚園や保育所での乳幼児とのふれあいを通じて、発達や成長の仕組み、他者へのやさしさや思いやりなどを身につけ、次代の保護者としての豊かな人間性を育むよう取り組んでいます。

《 人権教育 》

学校の教育活動全体を通じて人権教育を推進するとともに、市立小・中学校の人権教育をより推進するために、教育センターでは文化人権推進課・職員課との共同開催で人権教育研修会を実施し、教職員の理解と認識を深めています。

《 中学生人権作文コンテスト 》

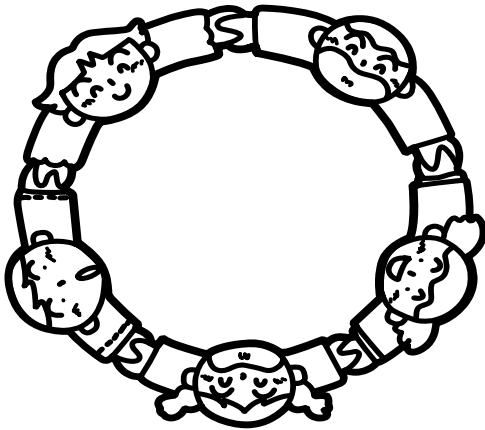
鎌倉市人権擁護委員会では、市内の公立・私立中学校の生徒を対象に人権に関する作文を書くことを通じて人権尊重の重要性について理解を深め、豊かな人権感覚を身につけてもらうことを目的に中学生人権作文コンテストを実施しています。

《 出前講話“平和” 》

再掲：資料編 P8 参照

《（仮称）かまくらっこ発達支援サポートシステム推進事業》

特別な支援を必要とする子どもが地域で生き生きと生活できるよう、サポーター養成講座を実施し、発達障害への理解や対応のスキルをもった人材の育成を図ると共に、その人材が有効に活用できる仕組みを構築していきます。



家庭、幼稚園・保育所、学校の連携 ～連続性のある取り組み～

《 幼・こ・保・小の連携を促進する事業 》

幼稚園・認定こども園・保育所・小学校の関係者が顔を合わせ、幼児教育に関する今日的課題について研究を行うとともに、保育参観や授業参観、研修会等を実施し、実態や諸課題について情報交換と研究協議を行っています。現在は、次の5つの事業が行われています。

- ① 幼児教育研究会
- ② 幼児教育研修会
- ③ 幼児教育研究協議会
- ④ 幼・こ・保・小連携研修会
- ⑤ 幼・こ・保・小交流事業担当者会

《 幼保小連絡会議 》

幼児教育に関連する課題の解決に向けた情報交換や幼児教育振興のための研究及び研修を行うことにより、幼稚園、保育園、市立小学校の連携を図ることを目的として、関係団体及び関係各課で構成する幼保小連絡会議を行っています。

《 幼・こ・保・小の連携 》

各小学校の幼・こ・保・小交流事業担当者を中心に各校ごとに計画し、園との交流に取り組んでいます。

《 幼稚園教諭・保育士対象 絵本の読み聞かせ講座 》

絵本の読み聞かせを広げて、幼児から小学生へと豊かな心の成長を助けるための試みとして、平成27年度から実施しています。平成28年度はわらべうたも取り入れました。

《 小・中学校の連携 》

学区の小・中学校の教職員が連絡会等を開き、児童生徒、学校の情報交換を行っています。小学校6年生が中学校へ行き、授業や部活動を体験したり、中学校の教員が小学校で出前授業を行うなどの取り組みを行っています。また、この取り組みをさらに充実させるため「鎌倉市における小中一貫教育」を平成27年度から順次実施し、小・中学校の滑らかな接続を目指します。

基本方針 4

子どもたちの心と体を健やかに成長させ、豊かな感性を養います

心身の健康の増進
～正しい生活リズムと生活習慣～

運動能力や体力の向上
～体を動かすことの大切さ～

《 歯科保健指導 》

歯科医師会の協力を得て小学校では、歯の模型・紙芝居などを利用して年齢にあわせた歯科保健指導を行い、中学校では、自分の歯の健康について正しい知識を理解するために講演形式による歯科保健指導を実施しています。

《 学校保健大会の開催 》

学校保健への意識を高めるとともに、児童生徒の心身の健全な発達をめざし、学校保健大会を学校保健会とともに開催しています。

《 「かまくらっ子」の調査・研究 》

鎌倉市に在園・在学する幼児、児童生徒がどのような生活をし、意識をもっているか、5年ごと（平成30年度に調査実施予定）に日常生活を中心に調査・把握を行っています。過去の調査と比較検討することで、子どもたちの意識や実態の変化を明らかにし、子どもたちの心身の健全な発達のための参考資料としています。

《 鎌倉ならではの自然環境 》

鎌倉は海・山・川や池など、多様な自然環境に恵まれています。各学校では、自然体験を通して子どもたちの豊かな感性を養うため、十分な安全対策のもと、校外学習や遠足の場として積極的に活用しています。



《 体力向上への取り組み 》

小・中学校では、児童生徒の体力向上にむけて、学校教育研究会体育・保健体育部会を中心に授業研究を行い、指導の充実を図っています。

また、校内ドッジボール大会、持久走大会等を実施するとともに、中学校では部活動に全校で力を入れ、各種大会が実施されるなど、児童生徒がさまざまな運動に夢中になって取り組むことにより、運動への興味・関心を高め、その結果として運動習慣が身に付くよう配慮しています。さらに、休み時間を体力向上のために有効に使い、運動する時間の確保に努めるなど、運動環境を整えています。

《 小学校 陸上記録大会 》

市内の国公立全小学校（17校）の6年生が一堂に会して「小学校陸上記録大会」を開催しています。自らの記録に挑戦し、運動することの楽しさを味わい、意欲的に運動しようとする態度を育てます。

《 水泳補助指導員 》

小学校体育科の水泳学習で、指導の充実と安全を図るため、専門の知識と指導力を持つ地域の方々を「水泳補助指導員」として派遣しています。

《 中学校運動部活動補助指導者 》

中学校の運動部活動において、専門的技術などの指導が必要な場合、顧問の協力者として補助指導者を派遣しています。平成28年度は3校の柔道部または剣道部に派遣を行いました。

《 中学校体育連盟（中体連） 》

運動競技の発展を図り、保健体育全般にわたる研究をし、体育文化の向上を目的に活動しています。市立9校、国立1校、私立6校が加盟しています。競技部（専門部）には、14の種目別の専門部があり、総合体育大会などの各種競技会の企画・運営を行っています。研究部会は保健体育の調査研究や研究発表・講習会などを行い、特別委員会では中学校体育連盟の課題について検討しています。また、加盟校が各種競技会を通じて、鎌倉市の中学生としての、ふれあいとまとめ、心身の健全な発達を期することを目的に、毎年6月から総合体育大会が行われています。

《 スポーツ関連事業 》

子どもたちが充実した毎日を過ごすことができるよう、スポーツを通じた「健康なからだづくり」と、スポーツによってルールを守ることの大切さや、フェアプレーの精神を学ぶ「健全な心づくり」を進めており、平成28年度にスポーツ課が実施した小・中学生を主な対象としたスポーツ事業は、「初心者子ども体操教室」「チャレンジスポーツ」「巡回楽しくスイミング」、材木座海岸で行う「砂浜でかけっこ」、鎌倉中央公園で行う「山野でかけっこ」など9事業13教室で、平成29年1月現在で延べ903人の参加がありました。（「マリンスポーツ初心者体験教室」は荒天のため中止。）

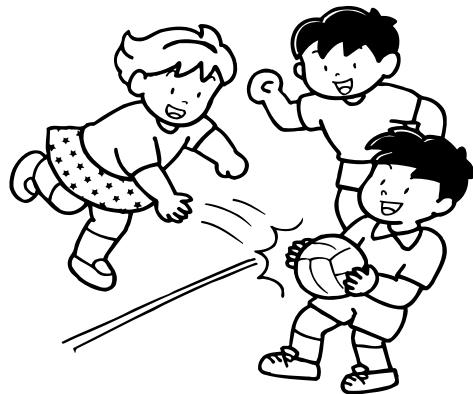


《 鎌倉市ジュニアスポーツ栄誉表彰 》

スポーツ大会などで優秀な成績を収めた鎌倉の子どもたちを表彰し、子どもたちがより強い意欲を持ってスポーツに取り組めるように支援するもので、平成25年度に創設しました。

鎌倉市民を対象とする大会等で優勝したり、全国的な大会または関東地区大会に出場した中学生以下のチームまたは個人に贈られます。

平成28年度は、10月に鎌倉芸術館にて44団体、個人127名の合計171件を表彰しました。



子どもたちの健康の基盤づくり
～家庭と連携した「食育」への取り組み～

《 食育について 》

児童生徒が食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけることにより、生涯にわたって健やかな心身と豊かな人間性をはぐくんでいくための基礎が培われるよう、栄養バランスや規則正しい食生活、食品の安全性などの指導を、栄養教諭を中核に、栄養職員や教員が連携して行っています。

また、体に関わる事柄や食品の旬、地場産・生産・加工・流通に関わる事柄なども関連教科で指導しており、年間指導計画を立てて、学校教育全体を通して行っています。

《 食育事業の実施 》

市民健康課主催の「やってみよう！わくわくクッキング」事業時に、図書館スタッフが、幼児（未就学）とその保護者におはなしかいを行います。

最初に、図書館スタッフが、幼児と保護者に野菜やお米等に関する絵本や紙芝居の読み聞かせ、手遊びをします。その後、市民健康課スタッフが、幼児・保護者といっしょに野菜やお米の調理をします。

絵本や紙芝居・わらべうたで出てきたものが、後で調理されるので、より身近に感じられるようです。

《 学校給食事業 》

市立小学校では、栄養バランスのとれた食事を提供することにより、児童の心身が健全に発達することを目的として、自校式の給食を実施しています。また、食育推進の観点から、旬の食材や行事食、郷土料理、地場産物を積極的に取り入れた献立を提供しています。

市立中学校では、平成29年度11月中に、全校でデリバリー方式での給食を実施できるよう準備を進めています。



《 給食だより 》

学校給食の内容やレシピの紹介、児童生徒の給食での様子から、家庭の食生活の参考となるよう情報を随時発信しています。

《 ランチルーム 》

多くの小学校では、教室とは違う、食事をするのにふさわしい場として、ランチルームで給食を食べる機会を設けています。担任と連携し、栄養教諭・栄養職員が食育を行う場としても活用しています。

《 食物アレルギーへの対応 》

食物アレルギーのある児童の給食には、食物アレルギー対応マニュアルに基づき、安全な給食が提供できるように対応を図っています。

《 学校給食展 》

鎌倉市の学校給食について地下道ギャラリー50で展示などを行い、保護者・児童だけでなく広く市民にも食に対する関心や学校給食に対する理解を深めるため学校給食展を実施しています。



豊かな心を育む
～芸術・文化活動～

《 放課後子ども教室 》

放課後子ども教室は、放課後や週末等に小学校の特別教室や施設開放している教室等を活用し、安全・安心な子どもの活動拠点（居場所）を設け、地域の方々の参画を得て、子どもたちに勉強やスポーツ・文化芸術活動等の機会を提供することにより、子どもたちが心豊かで健やかに育まれることを目的としています。鎌倉市では、稲村ヶ崎小学校・今泉小学校において放課後子ども教室を実施しています。

《 小学校音楽会 》

市内の国公立全小学校（17校）の代表学年の児童が鎌倉芸術館大ホールで「小学校音楽会」を開催しています。日頃の学習の成果を発表し、お互いに鑑賞しあうことを通して、意欲的に音楽活動をししようとする態度を育てます。

《 子どものためのウィンターコンサート
かまくらこどもコンサート 》

吹奏楽や交響楽の鑑賞を通して、子どもたちの豊かな情操を育むとともに、市民アマチュア楽団を育成し、市民による文化活動の一層の普及・振興を図ることを目的として開催しています。

《 中学校文化連盟 》

中学校文化連盟連合文化祭を開催し、市内の国公立中学校の文化部所属生徒が、各種文化芸術活動を通じて、鎌倉市の中学生同士としてふれあい、活動しています。

また、演劇発表会や中学校音楽会を通じて文化芸術活動への意欲・技術の向上を図っています。

《 鎌倉市ゆめひかる文化芸術子ども表彰 》

鎌倉市ゆめひかる文化芸術子ども表彰は、文化芸術活動で優秀な成績を収めた子どもたちをたたえ、応援することで、子どもたちの文化芸術活動に対する意欲を高めることを目的として実施しています。

《 図書館での教職員社会体験研修の実施 》

市内小・中学校の教員のうち、5年・10年の経験者を対象に図書館で行う研修です。

図書館スタッフが、図書館の案内、こどもたちへの読み聞かせ実習、郷土資料、調べ物学習の方法などについて紹介します。毎年、夏休みに2日間開催し、図書館を知ってもらい、学校と図書館の連携を図ることに役立っています。

《 夏休み写生大会 》

市内在住・在学の小・中学生及び幼児の夏休み中における情操教育の一環として開催しており、自然の中で自由に写生し、作品を展示することによって、感性を豊かに伸ばすことを目的としています。名所・旧跡（主として寺社）を会場にしているため、子どもたちの古都鎌倉再発見の機会にもなっています。



《 児童作品展 》

市内の国公立全小学校（17校）の全学年の書写と図工の作品が鎌倉芸術館ギャラリーで展示されます。鑑賞を通して他校との交流を図っています。

《 鎌倉駅地下道「ギャラリー50」への
作品等展示 》

児童生徒の絵画や工作、研究物等を鎌倉駅地下道「ギャラリー50」に展示することにより、学校教育の成果の一端を広く公開しています。

《 親子景観セミナー 》

小学生とその保護者を対象として鎌倉らしい景観をつくり出している風景や建物等を講師の説明を聞きながら見学するセミナーを実施しています。

《 出前講座 》

主に市内の小中学生を対象に、鎌倉の景観に関する歴史やこれからの景観づくりなどについて写真や絵を用いて解説しています。

基本方針 5

安心して子育てができる環境づくりを進めます

子育て支援のネットワークの充実

《 保育園地域交流事業 》

保育園等で、育児に関する相談ができます。また、地域の子どもたちの交流、育児講座なども行っています。【※実施園（平成28年度）：公立保育園全園、富士愛育園、聖アンナの園、岩瀬保育園、オレンジ、清心保育園、大船ひまわり保育園、たんぽぽ共同保育園、梶原の森たんぽぽ保育園、山崎保育園、寺分保育園、認定こども園アワーキッズ鎌倉、認定こども園アワーキッズ大船、認定こども園鎌倉みどりこども園、こぼとナーサリー、ピヨピヨ保育園、プレップおおぞら保育園、保育園みつばち】

《 かまくら子育てメディアスポット 》

市役所ロビーに「かまくら子育てメディアスポット」を設置し、子育てサークル、遊び場、保育所・幼稚園情報などの子育て支援情報を積極的に提供しています。また、授乳室やキッズコーナーも併設しています。

《 子育て支援センター 》

乳幼児とその保護者が、安心して、ゆっくりとくつろげ、また、親子同士で交流できる場として設置しています。さらに、子育て支援センターの子育てアドバイザーが、子育てについての相談に応じ、子育て情報の提供を行っています。

《 かまくら子育て支援グループ懇談会との協働事業 》

市内の子育て支援団体と子育てグループの16団体と個人会員からなる、かまくら子育て支援グループ懇談会と協働で「一日冒険遊び場」の開催を行っています。

《 「こどもと家庭の相談室」の開設 》

こどもと家庭に関するあらゆる相談に応じています。また、児童虐待相談については、関係各課及び関係機関等と連携しながら対応しています。

《 つどいの広場 》

主に乳幼児（0～3歳）とその保護者を対象に子育てに不安を抱える親などが気軽に集える場を提供し、親子同士の交流を図るとともに、子育て・悩み相談などに応じるなど身近な地域での子育て環境の整備促進を図ることを目的に、腰越行政センター、七里ガ浜子ども会館で開設しています。

《 保健・福祉関係者などによる相談体制 》

家庭訪問・乳幼児健康相談・乳幼児健康診査・育児教室などで、子育てに関する相談を受け、育児不安の軽減を図り、育児力の向上を目指しています。

《 広場・公園・子育てサロンなどの情報の提供・子育てマップ 》

「かまくら子育てナビきらきら」を発行し、子どもとお出かけするための情報として、地図とともに主な公園の写真や子育てサロンの活動の様子、子ども会館の情報などを紹介しています。

《 きらきらサロン 》

子ども会館等を会場に、乳幼児親子が参加できる子育てに役立つ講座を実施しています。

《 子どもの家 》

市では、市内の16小学校区全てに子どもの家を設置して、就労などにより、昼間保護者がいない小学生に対して、遊びや生活の場を提供して、家庭的な支援を行っています。

《 5歳児すこやか相談事業 》

子どものすこやかな成長を支援するため、市内在住の年中年齢の子どもを対象とした「5歳児すこやか相談」を行っています。

《 発達支援システムネットワーク 》

障害のある子どもや特別な支援を必要とする子どもに対して、保健・福祉・教育などの関連各課・関係機関等が連携し、一貫した継続的な支援を行っています。

《 発達障害等啓発のための講演会の開催 》

発達障害等の特別な支援を必要とする子どもが、地域で豊かに生活できるよう、発達障害等啓発講演会を開催し、市民の発達障害に関する理解促進に努めています。

《 学習支援 》

生活保護受給世帯を含む生活困窮世帯の子どもを対象に、対象者の状況に応じた形式で行う学習支援のほか、保護者等への学習の理解を促すための修学支援と子どもの居場所づくりも併せて実施しています。

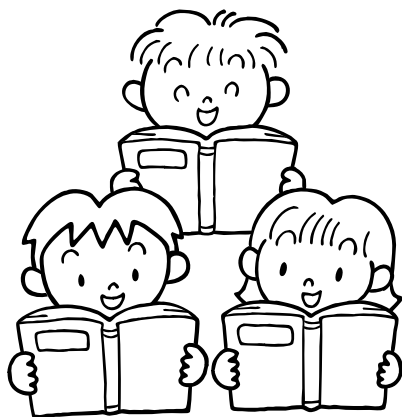
【外部委託事業 平成28年10月から実施】

《 民生委員・児童委員 》

再掲：資料編 P9 参照

《 関連機関との連携 》

再掲：資料編 P5 参照



《 図書館での取り組み 》

「ブックスタート」・・・

6か月児育児教室で、絵本の読み聞かせやわらべうた・図書館の案内などを行っています。絵本1冊とブックリストなどが入ったブックスタートパックを手渡し、家庭での絵本の時間をつくるきっかけになるよう取り組んでいます。

また、絵本の紹介や読み聞かせの仕方などの相談も受けています。

「あかちゃんと楽しむおはなしかい」・・・

0歳児・1歳児の子どもと保護者を対象に、絵本の読み聞かせやわらべうたを行うおはなしかいです。

絵本やわらべうたを親子で楽しんでいただくと同時にコミュニティの場にもなっています。

「おひざにだっこのおはなしかい」・・・

2～3歳児の子どもと保護者を対象に、絵本の読み聞かせやわらべうたを行っています。ことばを通じたコミュニケーションを図り、おはなしの楽しさを知っていただけます。

また、絵本の紹介をしたり、絵本の読み聞かせの仕方などの相談も受けています。

「おはなし会」・・・

4歳くらいから小学校低学年の子どもを対象に、ストーリーテリング（おはなし）や絵本の読み聞かせを行っています。パネルシアターや紙芝居など、広くお話や本の楽しさを紹介しています。

「英語のおはなし会」・・・

0～3歳の乳幼児に英語の絵本読み聞かせをするもので、平成26年度より実施しています。

「多言語おはなし会」・・・

幼児や小学生の子どもたちと保護者に、フランス語やスペイン語の絵本の読み聞かせや手遊びを行います。色々な言語を話す人々と接し、交流を深めていくことを目的としています。

「バリアフリーおはなし会」・・・

障害のある人もない人も参加していただけるバリアフリーおはなし会です。手話付おはなし会は継続して行っています。

「学習パック」「子ども読書パック」・・・

子どもたちの学校での読書活動推進のため、調べ学習に役立つ資料をテーマごとにセットした「学習パック」、絵本、読み物を中心に対象学年の本をセットした「子ども読書パック」を学校に貸出ししています。

遊び場の環境づくり

《 子ども会館 》

子ども会館は、地域の子どもたちが自由に遊べるスペースで、市内に15箇所設置しています。設備は、場所によって多少違いはありますが、プレイルーム、図書室、卓球室などが整備されています。また、一部の子ども会館では、「つどいの広場」や「きらきらサロン」を開催して子育て期の親子に遊びと交流の場を提供しています。

《 自然と触れ合う環境の提供 》

子どもたちが海や山など鎌倉の豊かな自然の中でも日常的に遊ぶことができるよう、海水浴場の開設やハイキングコースの管理を行っています。



《 子どもの遊び場と広場や公園 》

現在、市で管理している公園は249箇所（平成29年2月1日現在）あり、市民の憩いの場として親しまれています。また、児童遊園等（子どもの広場、青少年広場など含む）は33箇所（平成29年2月1日現在）あり、児童及び青少年の活動的な遊びの場として利用されています。

市内の主な公園（カッコ内は特徴）は以下のとおりです；

鎌倉海浜公園（海岸との景観に配慮）、源氏山公園（鎌倉駅から近距離に位置）、鎌倉中央公園（谷戸や里山の自然を活かした作り）、六国見山森林公園（丘陵地の優れた樹林地と眺望）、散在ガ池森林公園（自然観察できる）、笛田公園（野球場や庭球場などのスポーツ施設がある）、夫婦池公園（自然とのふれあいを楽しめる）。

この他、平成27年4月に鎌倉広町緑地と岩瀬下関防災公園を、平成28年5月には笛田一丁目公園を開園しています。

《 安全で安心して遊べる環境づくり 》

再掲：資料編 P4 参照

